

令和4年度あおもりフィールドスタディ支援事業

プレイスメイキング プロジェクト成果報告書

プレイスメイキングプロジェクト実行委員会

青森中央学院大学

齊藤礼華 唐牛結 稲葉朱音 野呂音予

1.プレイスメイキングプロジェクト実行委員会の紹介

【メンバー：4年生1人、3年生1人、2年生2人】

青森中央学院大学経営法学部の学生4名から構成されている。

2.事業概要

【事業の目的・ねらい】

地域の若者が社会人と気軽に交流をし、青森で働くことについて考え、地元にも愛着を持ってもらうことを目的として、

①青森駅前周辺エリアのパブリックスペースに仮説の撮影スポット等を設置し、地域の人々がより集いやすい居場所を創出する

②そのスペースや既存の施設を活用して、若者と社会人が交流できるような企画を実施する

○ 空間デザイン部門

- ・屋外、屋内のプレイスメイキング・サードプレイス等の空間デザイン
- ・駅周辺エリアにおける学生と社会人が気軽に交流できる空間デザイン

○ イベント企画部門

- ・プレイスメイキング・サードプレイス等についての学習会企画
- ・駅周辺エリアにおける学生と社会人が気軽に交流できるイベント企画

3.活動スケジュール

9月 :関係者打ち合わせ

10月:食のイベント用メニューの考案、
社会人と学生のワークショップ開催

11月:ワークショップの振り返り

12月:食のイベント実施

1月 :社会実験に向けた準備

2月 :社会実験実施、振り返り・まとめ活動

4.活動内容①～空間デザイン部門～

- フクシアンドフクシ建築事務所の福士さんと週に一度ミーティングを行った。
- 実際にどのような空間ができれば人が集まるかというテーマで社会人と学生が交流できるワークショップを行った。



4.活動内容②～空間デザイン部門～

- 2月13日:ワ・ラッセ西の広場に「BOX MUSEUM」設置工事
- 2月15日:各ボックス内の装飾
- 2月16日～19日:社会実験実施
- 2月18日:東奥日報の朝刊にて掲載
- 2月20日:「BOX MUSEUM」の撤去



4.活動内容①～イベント企画部門～

- 講師の熊谷さんにキャロットケーキの作り方を教わったり、青森県産の野菜を使った料理を一緒に考案したりした。



4.活動内容②～イベント企画部門～

- 9月28日: 講師の熊谷さんとメニューを考案した。
- 10月上旬: メニューの改良を行った。
- 12月25日: クリスマスワンデーカフェを実施した。



5.事業の収支決算

(単位：円)

【収入】

区 分	決算額	摘 要
自己負担額	190,412	
青森市産官学連携プラットフォーム事業費	100,000	
大学活動費	90,412	
市補助金額	400,000	令和4年度あおもりフィールドスタディ支援事業補助金
合 計	590,412	

【支出】

(単位：円)

科 目	決算額	内 訳		摘 要
		自己負担	補助金	
事務費	484,434	189,934	294,500	プレイスメイキング設置物制作のための消耗品など
原材料費	19,478	478	19,000	料理イベント食材
報償費	85,000	0	85,000	講師料、指導料
使用料及び賃借料	1,500	0	1,500	駐車場借上料
合 計	590,412	190,412	400,000	

6.事業成果～空間デザイン部門～

☆ワ・ラッセ西の広場に「BOX MUSEUM」設置

- 2月16日～19日実施
- 来場者数の合計は500人以上であった。
- 特に、土曜日と日曜日の来場者数はそれぞれ100人以上であった。
- 若者にとって居心地の良い場所を作り若者の地域定着へと繋げることを目的とし、社会人と学生が交流できるワークショップを開催したり、地元の若者向けの美術館を制作したりする活動をした。
- 来場者には日本人観光客や外国人観光客も多かった。
- 地元の来場者の中では、特に夜のライトアップ時に訪れた高校生たちが、ボックス内での写真撮影を楽しんでいる様子だった。
- 今後も若者向けの撮影スポットを作り、1年などの長期でSNSの発信をすれば、より若者が街に集まりやすくなり、若者の地域定着に繋がるだろうと考える。

6. 事業成果～イベント企画部門～

☆「クリスマスワンデーカフェ」

- 12月25日実施
- 来場者数は20人であった。
- このイベントは青森中央学院大学サテライトキャンパスで行われた。
- 参加留学生の出身国の料理と、調理サークル考案のキャロットケーキを作成し、訪れた人に無料提供した。
- 当イベントは青森駅前の活性化、留学生と大学生の交流、留学生と市民の方の交流を目的とした。
- 販売活動は行わなかったため収益は0である。
- 会場にいた留学生がお客さんにどのような料理かを説明したり、訪れた家族連れのお子さんが料理のお礼に踊りを披露してくれたり、交流を深めることができた。今回は無償のイベントだったが、留学生の出身国（タイ・マレーシア・中国・ベトナム・中国）の料理に関心がある人は多かったため、料理教室を行ったりすることでビジネス化が可能なのではないかと考える。

7.総評～空間デザイン部門～

- 良かった点はターゲットとしていた高校生などの若者からの人気が高かった点や土曜日や日曜日などの来場者数が多かった点である。
- 課題点は使用場所の確定に時間がかかったことで、準備期間が短くなってしまった点や広告制作が遅くなってしまい、周知が十分ではなかった点である。
- 今回は当初予定していた屋内でのプレイスメイキングをすることができなかったため、次回はワークショップを参考に実施したいと考える。

7.総評～イベント企画部門～

- 日本人のメンバーだけでなく、留学生とも一緒に活動したため、時折上手く意思疎通できない場面もあったが、協力してイベントを実施することができた。
- 良かった点は、同じ大学に通っていても普段は留学生と日本人学生の交流が少ないため、このイベントを通して交流出来た点、カフェに来てくれたお客さんは、青森市にタイ・マレーシア・中国・ベトナム・中国などたくさんの国から留学生が来ていることを知らない方が多かったが、このイベントを通してそれを知るきっかけになったことや、出身国への理解を深めることが出来た点である。
- 課題点は、イベントを広告する手段をSNSでの宣伝と、当日の呼び込みでしか行うことが出来なかったため、イベントを多くの人に知ってもらえなかった点である。訪れた人は若い人や、SNSを利用している人がほとんどで、年配の方はこのイベントを知らなかったり、当日の呼び込みではイベントに来てくれる人も少なかったりした。SNS以外でもポスターなどで早めの広告をすることが重要だと感じた。